

日本薬学生連盟 2021 年度補欠選挙立候補申請書

立候補者氏名	中井悠花
立候補する役職	交換留学委員長
大学/学部/学科	大阪大学/薬学部/薬学科
学年	2 年
所属	交換留学委員会、国際渉外部
日本薬学生連盟での活動経歴	記入例) 2019 年 交換留学委員会 所属 2020 年 交換留学委員会 関西副 LEO 2020 年 国際渉外部 所属
立候補動機	対面式で交換留学プログラムが開催できるようになるまで交換留学委員会を存続させ、また再び交換留学プログラムを企画、運営できるようにスタッフを育成するため。また、現委員長からの推薦より。
問題点と改善案	<p>役職自体の問題点、およびその役職をとりまく環境の問題点を指摘し、その改善案などを記入する。</p> <p>交換留学委員会が抱える問題として、イベントへのスタッフまたは参加者としての参加率の低さが挙げられる。スタッフ会員がイベント参加へ消極的であると、委員会全体の士気の低下にもつながる。委員会の士気が低下するとイベントの開催も少なり、委員会の活動がどんどん縮小してしまう。これは私が立候補動機でも示したような、交換留学委員会の存続に反する。また、交換留学委員会にスタッフとして所属するのならば、留学生と交流したり、世界について考えたり、英語力を伸ばしたりできる貴重な機会を利用してほしいと考えている。イベントへの参加には、モチベーションの低下、スタッフ間の距離が障壁となっている可能性がある。委員会に所属するスタッフのモチベーションの低下によって積極的にイベントに携わることへのハードルが高まってしまふ。よってモチベーションを保つために、特に新規スタッフへのフォローを重点的に行うことが必要である。委員会に所属して半年間はイベントがあるごとに誘いかけ、イベントで他のスタッフと交流すること、イベントから刺激を得ることでモチベーションを保つことができるだろう。さらに、このイベントへの誘いかけは企画リーダーや地域リーダーらが協力してすでに委員会に所属するスタッフにも行いたい。スタッフ間の距離は、おもに頻繁にイベントを運営するスタッフ、イベントに参加するスタッフと普段はイベントにあまり参加しないスタッフの間に生まれてしまう。特に本年度は対面式の交換留学プログラムは中止となり、地域のスタッフが実際に集まって話すような機会がほぼなく他のスタッフとの交流が少なかったと感じた。交換留学委員会は所属するスタッフが多いために全員が仲良くするというのは困難であるが、イベント参加の動機となりえる、親しいスタッフがいるというのが理想である。親しいスタッフがいなくとも、一度でも話したことがある、または顔を合わせたことのある人がいる方がイベントにより参加しやすい。よって、スタッフ間の距離を縮めるために、オンラインでのスタッフ交流会を開催する予定である。交流会では普段イベントに参加しない人々も参加しやすいように、学年ごとのグループに分かれた交流会を考えている。少しでも話したことのある、お互いを知っているというスタッフをそれぞれ増やしてほしい。そしてスタッフ間の距離を縮め、イベントへもっと気軽に参加できるようにしたい。</p>
活動計画	<p>月、季節ごとの大まかな活動計画で可。 通年で行う計画の活動があれば記入する。</p> <p>4-5 月 LEO ミーティング、新歓での委員会説明、スタッフ交流会 5-8 月 夏 SEP(オンライン)の企画・運営 10 月 薬フェスでの委員会説明、新規スタッフ獲得、スタッフ交流会 11-2 月 冬 SEP の企画・運営(オンラインの場合) 9-2 月 冬 SEP の企画・運営(対面の場合) 3 月 年会でのワークショップ開催</p>

所信

所信とは、自らの信念のこと。
日本薬学生連盟本部の一員として、自分の部署内だけでなく、団体全体にどう貢献したいかなど、熱い思いを記入してください。

2020 年度は新型コロナウイルスの世界的大流行の影響により従来のような対面式での交換留学プログラムは中止となり、交換留学委員会だけでなく日本薬学生連盟では多くのイベントがオンラインでの開催となった。先の見えない不安定な 1 年であり、難しい状況は今もなお続いている。そこで私は日本薬学生連盟本部の一員として、まず、社会の変化に対応できるような「柔軟性」を持って活動していきたいと考えている。

交換留学委員長としては、対面式での交換留学プログラムを開催できるような組織づくりを行いたい。交換留学委員会および交換留学プログラムの存続により日本の薬学生が世界と気軽につながれるような環境を維持していきたい。また、世界を知ること自分自身が暮らす日本という社会についても見つけぬおすきかけを与えられる。私は昨年度に関西交換留学プログラムにおいて 2 週間にわたり留学生と交流し、企業、病院への見学やその他のイベントに参加した。2 週間で私は英語を話すことへの抵抗が薄れ、またイベントを通して病院での薬剤師や海外の薬学生の考え方など多くのことを学ぶことができた。対面式での交換留学プログラムの楽しさや得られる学びを多くの人に体験してもらいたい、日本での滞在を希望する留学生を受け入れたいという思いから、2021 年度は対面式での交換留学プログラムへの長い準備期間だと考えて活動するつもりである。対面式での交換留学プログラムに向けて必要なことは、イベントの企画・運営の経験を積むこと、英語を話す練習をすること、また現委員長が作成したマニュアルの更新およびオンラインイベント開催におけるマニュアルの作成、この 3 点であると考えている。まず、スタッフをオンラインイベントへ主体的に参加させ、イベントの企画・運営の流れを経験してもらいたい。イベントを企画した経験が 1 度でもあれば、対面式でのイベントへも応用できるだろう。英語を話す練習をすることは、留学生と交流する上で必要不可欠である。確かに、英語が話せなくてもコミュニケーションは可能である。しかし、英語を話せるほうが留学生とより深いコミュニケーションを取れることは明白であるし、施設見学において通訳をできるような英語力を身に着けるために、スタッフだけでなく自分自身のためにも英語を話す機会を設けたい。例えば、オンライン夏 SEP や留学生と話すようなイベントを現在計画している。マニュアルを更新することで、交換留学プログラムに必要な仕事を具体化でき、対面式での交換留学プログラムを再開する際に取り組みやすくなる。交換留学プログラムの開催が 1 年以上空いてしまう、加えて中心スタッフのメンバーが入れ替わってしまうため、次回のプログラムの開催では多くの課題に直面するだろう。そこで少しでも運営を円滑に進めるために、マニュアルを更新していきたい。また、本年度および来年度でのオンラインイベント運営の経験から、オンラインイベント開催についてもマニュアルを作成したい。実際に、オンラインイベントの開催した際に、必要な仕事が想定よりも多かったために私自身苦労した。そのため、より多くのスタッフが気軽にイベントを開催できるように、イベント作りを楽しんでもらうために指針となるマニュアルの作成を行いたい。

さらに、交換留学委員会のスタッフだけでなく、他の部署や委員会のスタッフ、日本薬学生連盟の会員、日本の薬学生のより多くの人に英語や海外を身近に感じてもらいたいと考えている。オンラインイベントでは住んでいる場所に関係なく参加できる。また、開催費用もほとんど発生しないことから気軽に参加できるイベントとして海外や英語について考える機会を提供したい。例えば、疑似海外旅行や海外の薬学生との文化交流会などのイベントを構想中である。海外旅行や留学に簡単に行けない今だからこそ、英語や海外についてのイベントは需要があるだろう。以上のように、私は今の、そしてこれからの社会に「柔軟に」対応しつつ、より多くの人に英語や海外について考えてもらうため、交換留学委員会を存続させるためにも委員長として、日本薬学生連盟に貢献していきたい。

※本申請書の記入については、下記の条件を遵守してください

- ・フォントサイズ : 8
- ・フォント : MS Pゴシック
- ・A4 サイズ2枚以内